

4回目:教え方・伝え方の工夫ー

鳥取大学医学部 井上雅彦研究室

今日のメニュー

- 前回の復習(ほめ方)
- 教え方の工夫
- 手続き作成表を作ってみよう
- ストラテジーシートを作ってみよう

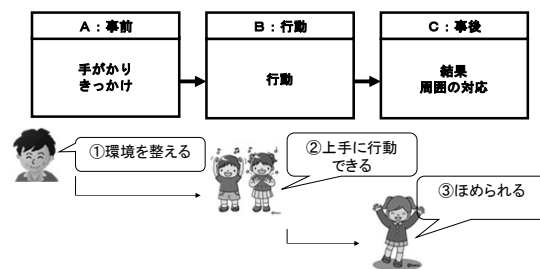


1. 前回の復習



事前の工夫をすると・・・

- 「事前」の工夫をすることで、よい流れを作ることができる



環境を整える

- ① 事前に予定を視覚的に示す
- ② 指示やルール、すべきことを視覚的に示す
- ③ 気になるものや苦手なものを事前に取り除く
- ④ 本人の好きなものや活動をとりにいれる
- ⑤ 適切な行動を始めやすいように、手がかりをとりにいれる
- ⑥ 適切な行動を始めやすいように、道具などを工夫する

事前の工夫のまとめ

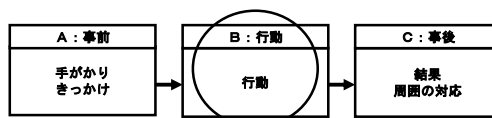
- ・ 環境を整えることで、子どもが落ち着けたり、学びやすくなったりする。
- ・ 視覚的に示したり、余分なものを取り除いたりすることは効果的である。
- ・ 子どもが興味を持てたり、使いやすいように道具を工夫することも有効である。
- ・ 環境の整え方に決まったルールはないので、一人ひとりに合わせてオーダーメイドで考える。

2. 教え方の工夫



教え上手になろう！

- これまでに、行動の後の工夫(ほめ方)、行動の前の工夫(環境調整や構造化など)について学んできました。
- 今回は行動そのものにアプローチする方法。



援助が必要なポイントは？

- 実際に教えていく前に、子どもがどこでつまづいているのかを見極めることが大切。
- 子どもに教えたい一連の行動を分解し、細かい行動の要素にわけて考えるとわかりやすい。(=課題分析)
- 要素の分け方に正解はないので、同じ行動でもその子どもにあわせた分け方をしていく必要がある。

たとえば「手を洗う」

①	蛇口をひねって水をだす
②	石けんをつける
③	泡立てる
④	両手をこすって手をあらう
⑤	石けんを洗い流す
⑥	水をとめる
⑦	タオルでふく

課題分析のメリット

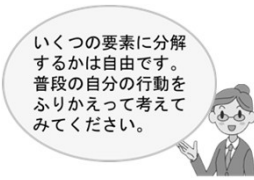
- ① どのポイントで援助すればよいかのわかりやすくなる。
- ② 子どもにとって、どの部分が難しいのかがわかりやすくなる。
- ③ 難しい部分に合わせて、援助の種類や程度を変えることができる。

「課題分析」をした結果

○	蛇口をひねって水を出す	
×	石けんをつける	→ 固形石けんを液体石けんへ変える 液体石けんを泡の石けんへ変える
○	泡立てる	
○	両手をこすって手を洗う	
×	石けんを洗い流す	→ 30秒タイマーを設定する
○	水をとめる	
○	タオルでふく	

練習：課題分析をしてみよう①

□「カップラーメンを作る」という行動を課題分析してみよう。



①	外袋をはがす。
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	

回答例：課題分析①

①	外袋をはがす。	①	外袋をはがす。
②	ふたを開ける。	②	やかんに水を入れる。
③	ポットのお湯を注ぐ。	③	やかんをコンロの上に置く。
④	ふたを閉める。	④	コンロの火をつける。
⑤	3分待つ。	⑤	ピーとなったら火を止める。
⑥	ふたを取る。	⑥	カップめんのだたを開ける。
⑦	箸でかき混ぜる。	⑦	やかんの湯を注ぐ。
		⑧	3分待つ。
		⑨	ふたを取る。
		⑩	箸でかき混ぜる。

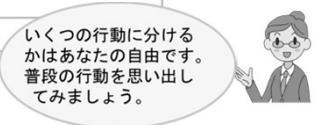
想定する材料や道具によって行動の要素が異なります

問題：課題分析をしてみよう②

□「コンビニでチョコレートを買う」という行動を課題分析してみよう。



①	店に入る。
②	
③	
④	
⑤	



回答例：課題分析②

①	チョコレートレジにもっていく	①	店に入る
②	お金を払う	②	チョコレートをレジへ持って行く
③	おつりとチョコレートを受け取る	③	チョコレートをレジで渡す
		④	財布を出す
		⑤	お金を払う
		⑥	おつりを受け取る
		⑦	おつりを財布へ入れる
		⑧	財布をしまう
		⑨	チョコレートを受け取る
		⑩	店から出る

分解の微調整

子どもに合わせてできるところは省略・簡略化し、苦手なところはさらに細かく分解します。

①	外袋をはがす。	合体	①	外袋をはがし、ふたを開ける
②	ふたを開ける。		②	「ロック解除」ボタンを押す。
③	ポットのお湯を注ぐ。	分解	③	「注ぐボタン」を押す。
④	ふたを閉める。		④	ふたを閉める。
⑤	3分待つ。	分解	⑤	タイマーを3分に合わせる。
⑥	ふたを取る。	変更	⑥	パズルをしながら待つ。
⑦	箸でかき混ぜる。		⑦	タイマーが鳴ったらふたを取る。
			⑧	箸でかき混ぜる。

援助の種類

□ 援助の種類は大きくわけて2つある

- 行動の前の工夫、環境の整備
 - 取り組みやすいように前もって工夫する
- 行動の最中の援助、行動の伴走
 - 子どもがその行動を確実に成功できるように、子どもに寄り添って直接援助する。
 - 指さし、手を添える、やってみせる、などの方法がある。

「行動の最中の援助」の種類

- ① 手をそえる・体を誘導
- ② 実際にやってみせる
- ③ 指さし
- ④ 言葉をかける



例：行動に伴走する援助の実際

たろう君はお母さんに言われて片づけをしようとしているところです。たろう君がおもちゃ箱に投げずに片づけられる援助の方法とは？

援助の種類

言葉をかける・指さし・実際にやってみせる・手をそえる・体をガイド



それぞれの援助の仕方を具体的に考えましょう。



答え：「行動の最中の援助」の種類

回答例

- ① 言葉をかける
「近づいて入れるよ」
- ② 指さし
おもちゃ箱の手前のスペースを指さす。
- ③ 実際にやってみせる
おもちゃ箱に近づいて入れてみせる。
- ④ 手をそえる・体をガイド
背後から体を支えて、おもちゃ箱の方へ誘導する。



「行動の最中の援助」のレベル



ちょうどよい量の援助

- 必要以上の援助をしない
- 少し待って様子を見てから援助をする
- 援助の量は徐々に減らしていく

- 多すぎると指示待ちになったり、援助に頼りすぎたりする。
- 少なすぎると失敗を繰り返してしまい、自信を失ってしまう。
- 子どもに伴走しながら、タイミングを見てちょうどよい量の援助を出すことが大切!

援助の減らし方

実際に教えるときには、いろいろな種類の援助を組み合わせを使っていきます。
援助を減らしていくときには、急にはではなく、子どもの出来具合を見ながら調整していきます。

例：手洗いを教える。



なくしていける援助と残す援助

援助はできるようになっていくごとに、徐々になくしていくという視点をもつことが重要。援助をなくすことと援助によって得られるメリットのバランスを大事にしていく。

- ① なくしていける援助
指さし、手をそえるなど行動に伴走する援助。
- ② 残す援助
スケジュールボード、料理カードなど一人であることを補助するための視覚的な援助ツール。

まとめ：教えるときの工夫

- 1 援助をするときには、どの部分に援助が必要かをまず探してみる。
- ② 行動を分解することで、援助が必要なポイントを見つけやすくなる。
- ③ 子どもの様子を見ながら、ちょうどいい量の援助をする。
- ④ 子どもが一人でできるようになるように、少しずつ援助の量を減らしていく。

3. 手続き作成表を作ってみよう



てつづき作成表

子どもに新しい行動を教えるときに便利なシートです。

各項目に具体的に記入していくことで、教える際の事前の環境と事後の対応を整理することができます。

人・時間・場所

1 誰が(かかわる人)	2 いつ	3 どこで(教える場所)

- 子どもにとっても、大人にとっても取り組みやすい時間場所にしましょう。
- 最初は、できるだけ同じ人・同じ時間・同じ場所で取り組みましょう。
- できるようになったら、人や場所を変えてできるように少しずつステップアップさせます。

行動の前の工夫

4 環境の工夫	5 言葉かけ・指示するもの	6 準備するもの

- 物理的な環境を整え、言葉かけ以外の手がかりも工夫してみる。→ 事前の工夫
- 指示をするタイミングを考えておく。
- 言葉かけは、短く・はっきり・具体的に。

子どもの行動

- 目標とする行動を、その子に合わせて小さな行動の要素に分けていきます。
 - 教えてみてうまく行かなかった部分は、行動をさらに細かく分けるなど、修正を加えます。
- 課題分析

7 目標とする子どもの行動
①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩

行動に伴走する援助

- 援助の量は子どもの様子に合わせて調整します。
 - 援助をしながら励ましなど肯定的な声かけをするのも効果的です。
- できなかったときの対応も考えておく

8 困難な場合の援助

行動の後の工夫

9 できたときのほめ方やかわり方

子どもに合わせたほめ方を！

- 直後にほめる。
- 子どもの喜ぶ方法でほめる。
- 声かけ以外のほめ方も工夫する(タッチ、握手、好きなものや活動、トークンなど)。

記録の取り方

一人でできた○ 援助つきでできた△ できなかった☆ 取り組めなかった-

お子さんの行動	1/5	1/6	1/7	1/8	1/9	1/20	1/21
① パジャマを手に取る	○	-	○	○	○	○	○
② すそを持つ	○	-	△	△	△	△	△
③ すそをひいて顔をっこむ	△	-	△	○	△	○	○

うまくできた○ まあまあうまくできた△ うまくできなかった☆

あなたの行動	1/5	1/6	1/7	1/8	1/9	1/20	1/21
上手に指示できましたか?	△		○	△	○	○	○
困難時に上手に援助できましたか?	☆		○	☆	△	△	○
上手にほめることができましたか?	△		△	○	△	○	○

どうして記録するの？

記録をとることのメリット

- ① てつづきがうまくいっているかどうかの確認ができる。
- ② つまづいている部分がわかりやすくなるので、てつづきを修正するときに参考にできる。

記録をとることで、より客観的な視点で対応を振り返ることができます。

たとえば・・・

一人でできた○ 援助つきでできた△ できなかった☆ 取り組めなかった-

お子さんの行動	1/5	1/6	1/7	1/8	1/9	1/20	1/21
① パジャマを手に取る	○	-	○	○	○	○	○
② すそを持つ	○	-	○	○	○	○	○
③ すそをひいて顔をっこむ	△	-	△	○	○	○	○
④ 顔を過す	△	-	△	△	△	○	△
⑤ すそを少しおろす	○	-	○	○	○	○	○
⑥ フックが指がについているかを確認	△	-	△	△	△	△	△
⑦ 左手を過す	△	-	○	△	○	△	○
⑧ 右手を過す	△	-	△	○	○	○	○
⑨ すそを引っさる	○	-	○	○	○	○	○
⑩							

④と⑥がなかなか上達しないな。てつづきを変えてみようかな・・・



うまくいかないとき

振り返りのポイント

- ① 行動の後のプラスの対応を行っていますか。
- ② たくさんほめていますか。
- ③ 気負わずリラックスして教えられていますか。
- ④ ちょうどいいハードルの(少しがんばったらできる)目標を設定していますか。
- ⑤ 教え方はお子さんに合っていますか。

1つ選択してみよう

- トイレでおしっこをする
- ズボンをはく
- 給食の前にテーブルを拭く
- ペットボトルのお茶をコップにいれる

トイレでおしっこに行く

- 課題分析
 - トイレに行く
 - ズボンをさげる
 - パンツをさげる
 - 便器にすわる
 - おしっこをする
 - 紙でふく
 - パンツをあげる
 - ズボンをあげる

トイレでおしっこに行く

- 事前の工夫
 - トイレに足台を用意しておく
 - 便座に座ったときに嫌でないように、便座カバーをかけておいたり、便座のヒーターをいれる
 - トイレですることのリストを貼っておく
 - おしっこが終わったらまた続きを遊べることを事前に示しておく
 - トイレに興味のあるキャラクターのポスターを貼ったり、楽しい雰囲気づくり
 - きれいに掃除をしておく

トイレでおしっこに行く

- 各課題分析ごとの工夫
 - トイレに行く…終わったら遊べることを伝えておく
 - ズボンをさげる(ぬぐ)…脱ぎ着しやすいズボンを
 - パンツをさげる(ぬぐ)…
 - 便器にすわる…便座の工夫を。和式の場合には足おき場を示すことも有効。
 - おしっこをする…排尿しやすいように足台を。男子用便器には目標地点を明確にする必要もある
 - 紙でふく…紙の長さが分かるような工夫を。
 - パンツをあげる(はく)…パンツやズボンの前後がわかる工夫を。
 - ズボンをあげる(はく)

ズボンをはく

- 課題分析
 - ズボンを前をむけておく
 - 座る
 - 右足をいれる
 - 右足を出す
 - 左足をいれる
 - 左足を出す
 - 立つ
 - ゴムを両手でもつ
 - ズボンをあげる

ズボンをはく

- 事前の工夫
 - 着替えのコーナーを設定しておく(場所を決めたり、お着替えシートを用意)
 - 前後・裏表がわかるように目印をつける
 - 椅子を用意しておいたほうがよいこともある
 - 課題分析の最後から指導する

ズボンをはく

- 課題分析ごとの工夫
 - ズボンを前をむけて置く…前がわかるように印をつける
 - 座る…立ち上がる時にバランスを崩すときには、椅子を用意しておくことよい。
 - 右足をいれる
 - 右足を出す…足がなかなか出てこないときにはズボンの先を持ってあげるだけでも履きやすくなる。長ズボンよりは短パンのほうが履きやすい。
 - 左足をいれる
 - 左足を出す
 - 立つ
 - ゴムを両手でもつ…具体的にこのあたりをもつとよいと教えてあげる。
 - ズボンをあげる…後ろをあげるができないことが多いため、後ろもあげることをあわせて教える。

給食の前にテーブルを拭く

- 課題分析
 - 台ふきをとってくる
 - 水でぬらす
 - しぼる
 - テーブルの端から縦方向にふく
 - 台ふきを洗う
 - しぼる
 - 台ふきを置く場所に返す

給食の前にテーブルを拭く

- 事前の工夫
 - テーブルにテープを貼って、どのような順番で拭いたらよいのかを示す
 - お水が嫌なときには温かいお湯を使うことも必要
 - テーブルを拭いたあとには給食を食べることができることを分かりやすく示す

給食の前にテーブルを拭く

- 課題分析
 - 台ふきをとってくる
 - 水でぬらす…難しい場合にはぬらした台ふきを渡す
 - しぼる…ぬれていない雑巾などでしぼる練習だけを事前にしておくことも必要。
 - テーブルの端から縦方向にふく…テープを貼ったり、絵で示したり、どのようにテーブルを拭いたらよいのかを事前に示しておく
 - 台ふきを洗う
 - しぼる
 - 台ふきを置く場所に返す…どこに台ふきをいれたらよいのかができるような工夫を。

ペットボトルのお茶をコップにいれる

- 課題分析
 - コップをとってくる
 - お茶をとってくる
 - ペットボトルのふたをあげる
 - お茶をいれる
 - ペットボトルのふたをしめる
 - お茶をのむ

ペットボトルのお茶をいれる

- 事前の準備
 - 最初は透明のコップで練習するとよい
 - 線をつけて練習をするのもよい
 - 350mlの小さなペットボトルから始めて、徐々に500ml、1Lへと移行していけると理想的。

ペットボトルのお茶をコップにいれる

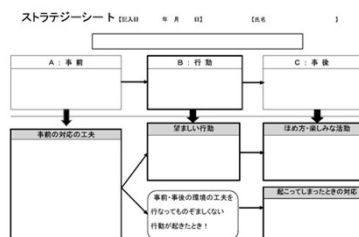
- 課題分析ごとの工夫
 - コップをとってくる…お気に入りのコップを用意するのもよい
 - お茶をとってくる…ペットボトルの大きさに注意
 - ペットボトルのふたをあける…ねじる動作だけ別場面で取り出して練習を
 - お茶をいれる…最初は透明のコップを使用したり、コップに線をつけたりする工夫を。
 - ペットボトルのふたをしめる
 - お茶をのむ

4. ストラテジーシートを練習しよう



ストラテジーシート

- 子どもの行動への対応を考えるときに便利なシートです。
- 子どもに関わる人たちが共通理解することができます。



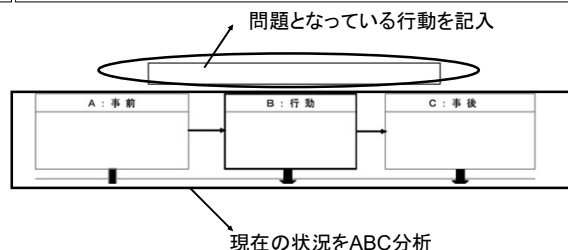
事例1

〔例〕

Aちゃんは遊んでいるときにトイレにいきたそうな仕草(股を手でおさえる)をするため、先生がトイレに誘うと「トイレいかない」と言って遊び続けます。それでも股を手でおさえるため何度か誘っても行かず、しばらくするとおしっこをもらしてしまいます。おしっこをしてしまうと、仕方がないので先生はシャワー室に連れて行き、シャワーをして着替えをさせます。

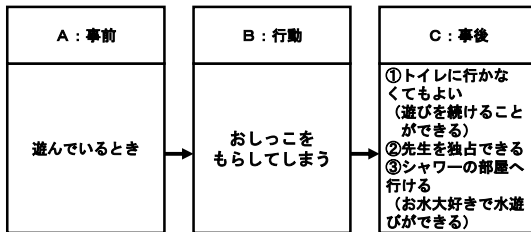
気になる行動は何でしょうか？まずは口の中になる行動を記入してみましょう。

現在の状況を分析



ABC分析をする

- 現在、先生が困っていることは何でしょう？
- ABC分析をしてみましょう。



最終目標を立てる

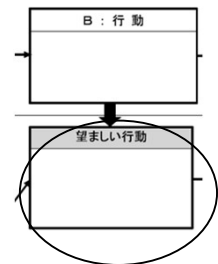
- まずは気になる行動に対して最終ゴールを設定する
 - おしっこに一人でできる
- 最終目標は完全な自立でなくてもよい。
 - 先生が誘ったときにおしっこにいける
 - 「トイレ」のカードを見せたときにおしっこに行ける

具体的な目標を立てる

- 最終目標が困難である場合には、スモールステップで段階をおって最終目標までステップを組む。
 - 例:最終目標「一人でトイレでおしっこをする」
 - 現在の目標「おしっこに誘うと便器にすわる」

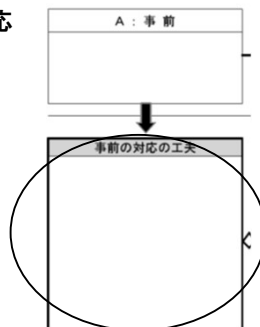
望ましい行動の記入

どのようになってほしいのか、望ましい行動を記入する



事前の対応の工夫

- 事前に考えておける対応を考える。
事前の環境設定をしておくだけでも随分子どもの行動は異なってくる

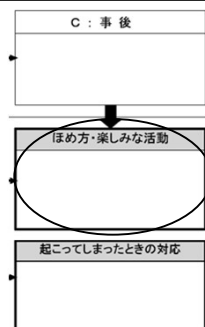


事前の対応の工夫を考えよう

- おこらなくて済む徹底した環境調整
 - 事前に予定を示す
 - 視覚的に示す
 - 要求レベルを下げる
 - 興味付けをする
 - 約束をする
 - 選択肢を提示し子どもに選択させる
- などです。アイデアを出して考えてみましょう。

ほめ方・楽しいな活動を考える

- ・事後にプラスの対応を考える。
- ・子どもにとってのプラスの対応って・・・？
- ・いくら環境設定をしていても起こることもあるので、起こってしまったときの対応もあわせて考えておくとい



事例2

- Bちゃんは外遊びが終わって教室に戻るときに、必ず「いやだ」と言って教室に戻ることができません。教室に戻る途中におもちゃを見るとおもちゃで遊び始めたり、水道をみると水遊びを始めてしまいます。

次回

- 次回は1月12日(水)16:00～です。
- 今日の演習でできていないところのある先生は仕上げておいてください。

